

# 〈すしん〉景況レポート

No.23 2023年1月

## CONTENTS

### 景気動向調査

2022年10～12月期実績、2023年1～3月期予想

### 特別調査 2023年(令和5年)の経営見通し

- 2023年の日本の景気見通しは「やや悪い」が36.8%
- 2023年の自社の業況(景気)見通しは過半数の52.1%が「普通」
- 2023年における自社の売上額の伸び率は、2022年に比べて「変わらない」が52.2%
- 自社の業況が上向く転換点は「1年後」が24.0%で最多
- 2023年の事業環境を展望したときの自社にとっての経営リスクは「原材料・仕入価格のさらなる高騰」が37.5%で最多

地域をつなぎ、地域と共に歩む

 須賀川信用金庫

# 景気動向調査

2022年10～12月期実績、2023年1～3月期予想

## 概況

### 業況判断DIは改善、 来期は悪化する見込み

今期の全業種業況判断DIは、▲19.2と前期から0.5ポイントの改善となった。

製造業は前期比1.6ポイント改善し7.9、卸売業は同6.2ポイント改善し▲12.5、小売業は同4.8ポイント悪化し▲21.8、サービス業は同1.1ポイント改善し▲23.4、建設業は同1.8ポイント改善し0.0となった。

来期の全業種業況判断DIは▲19.7で、今期比0.5ポイントの悪化を見込んでいる。

業種別では製造業と小売業で悪化、卸売業で横ばいを見込んでいるが、サービス業、建設業では改善を見込んでいる。

業況DI	2022年 4-6月	7-9月	10-12月	2023年 1-3月 (予想)	方向
全 体	▲24.6	▲19.7	▲19.2	▲19.7	
製 造 業	▲11.1	6.3	7.9	6.3	
非製造業	▲18.7	▲14.5	▲14.8	▲16.6	
卸 売 業	▲12.5	▲18.7	▲12.5	▲12.5	
小 売 業	▲34.8	▲17.0	▲21.8	▲30.5	
サービ業	▲26.6	▲24.5	▲23.4	▲21.3	
建 設 業	0.0	▲1.8	0.0	1.8	
不動産業	▲20.0	▲20.0	▲40.0	▲60.0	

低調 ← 好調 →

## 調査要領

1. 調査時期 2022年12月上旬～中旬
2. 調査対象 須賀川・岩瀬地区・石川地区の当金庫取引先(法人・個人事業者)
3. 調査方法 各営業店職員による聞き取り調査
4. 分析方法 各質問事項で「増加」(上昇)したとする企業の全体に占める構成比と、「減少」(下降)したとする企業の構成比との差(判断DI)を中心として分析を行った。

	調査先	回答先	回答率
製 造 業	65	63	96.9%
卸 売 業	16	16	100.0%
小 売 業	49	46	93.9%
サービ業	49	48	98.0%
建 設 業	55	55	100.0%
不動産業	5	5	100.0%
合 計	239	235	97.5%

## 全業種総合

### ●今期(10-12月)

#### 業況判断・売上額・収益DIはいずれも改善

今期の全業種業況判断DI(良い-悪い)は、前期比0.5ポイント改善し▲19.2となった。売上額DI(増加-減少)は同6.0ポイント改善の▲1.3、収益DI(増加-減少)は同8.0ポイント改善の0.4となった。

販売価格DI(上昇-下降)は同9.8ポイント上昇の35.5、仕入価格DI(上昇-下降)は同2.7ポイント上昇の42.7となった。在庫DI(過剰-不足)は同2.1ポイント低下の▲7.0となった。

資金繰りDI(楽-苦しい)は同2.3ポイント改善の▲21.2となった。借入れを実施した企業の割合は10.7%であった。

雇用面では、人手DI(過剰-不足)は同0.6ポイント上昇の▲30.9と、人手不足とする企業の割合は依然として高水準が続いている。また、設備投資を実施した企業の割合は25.4%であった。

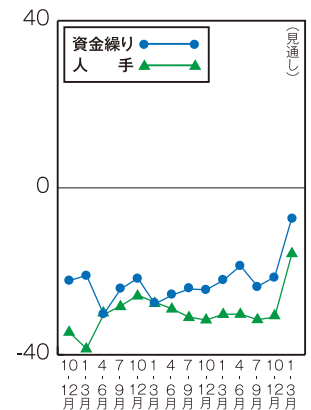
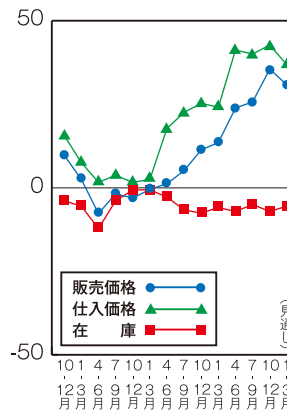
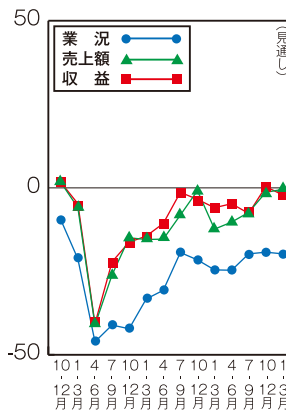
	2022年 4-6月	7-9月	10-12月	2023年 1-3月 (予想)	方向
業況判断	▲24.6	▲19.7	▲19.2	▲19.7	→
売上額	▲10.2	▲7.3	▲1.3	▲0.4	↑
収益	▲4.7	▲7.6	0.4	▲2.1	→
販売価格	23.9	25.7	35.5	30.8	→
仕入価格	41.2	40.0	42.7	36.8	→
在庫	▲7.0	▲4.9	▲7.0	▲5.4	↑
資金繰り	▲18.5	▲23.5	▲21.2	▲7.0	↑
人手	▲30.2	▲31.5	▲30.9	▲15.7	↑

### ●来期(1-3月)

#### 売上額DIは改善、業況判断・収益DIはともに悪化する見込み

来期の全業種業況判断DIは今期比0.5ポイント悪化の▲19.7、売上額DIは同0.9ポイント改善の▲0.4、収益DIは同2.5ポイント悪化の▲2.1を見込んでいる。

販売価格DIは同4.7ポイント低下の30.8、仕入価格DIは同5.9ポイント低下の36.8、在庫DIは同1.6ポイント上昇の▲5.4を見込んでいる。



## 製造業

### ●今期(10-12月)

#### 業況判断・売上額・収益DIはいずれも改善

今期の業況判断DIは、前期比1.6ポイント改善し7.9となった。売上額DIは同12.8ポイント改善の17.5、収益DIは同9.6ポイント改善の▲6.3となった。

販売価格DIは同6.4ポイント上昇の37.1、原材料価格DIは前期と変わらず63.5、原材料在庫DIは同1.5ポイント低下の▲1.5となった。資金繰りDIは同6.3ポイント改善の▲4.8となった。借入れを実施した企業の割合は7.9%であった。

雇用面では、人手DIは同1.8ポイント低下の▲14.5となった。また、設備投資を実施した企業の割合は6.5%であった。

	2022年 4-6月	7-9月	10-12月	2023年 1-3月 (予想)	方向
業況判断	▲11.1	6.3	7.9	6.3	→
売上額	1.6	4.7	17.5	11.1	→
収益	▲7.8	▲15.9	▲6.3	▲9.6	→
販売価格	30.1	30.7	37.1	37.1	→
原材料価格	64.1	63.5	63.5	54.0	→
原材料在庫	▲3.1	0.0	▲1.5	0.0	↑
資金繰り	▲1.5	▲11.1	▲4.8	▲4.7	↑
人手	▲17.5	▲12.7	▲14.5	▲14.5	→

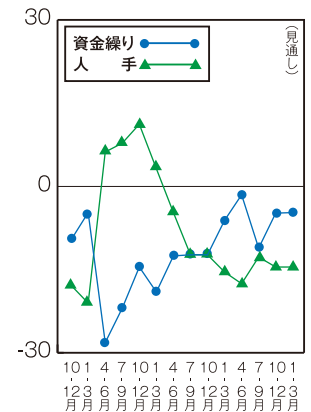
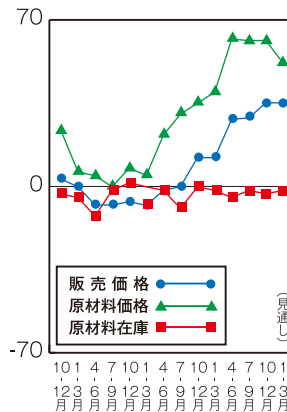
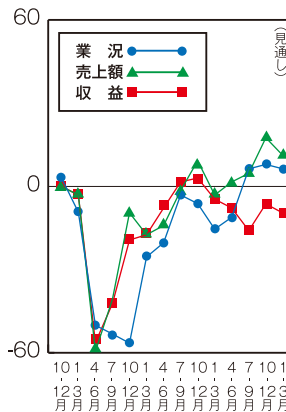
### ●来期(1-3月)

#### 業況判断・売上額・収益DIはいずれも悪化する見込み

来期の業況判断DIは今期比1.6ポイント悪化の6.3、売上額DIは同6.4ポイント悪化の11.1、収益DIは同3.3ポイント悪化の▲9.6を見込んでいる。

販売価格DIは今期と変わらず37.1、原材料価格DIは同9.5ポイント低下の54.0、原材料在庫DIは同1.5ポイント上昇の0.0を見込んでいる。

雇用面では、人手不足とする企業の割合は今期と変わらず▲14.5となる見込み。また、設備投資の実施を予定する企業の割合は12.1%であった。



#### 経営上の問題点

原材料高	21.9%
利幅の縮小	21.1%
売上の停滞・減少	17.5%

#### 当面の重点経営施策

販路を広げる	27.4%
経費を節減する	24.5%
人材を確保する	13.2%

# 非製造業 ※不動産業は、調査対象先が少ないため業種ごとのDIは掲載しておりません。

## ●卸売業

### ●今期 (10-12月)

#### 業況判断・売上額・収益DIはいずれも改善

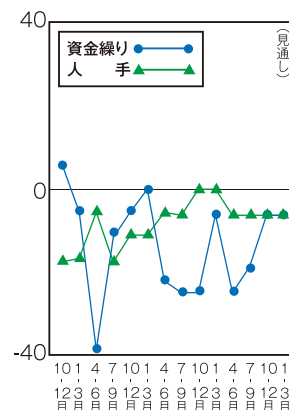
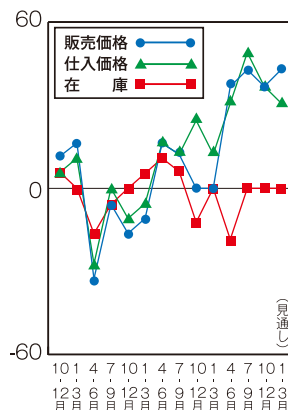
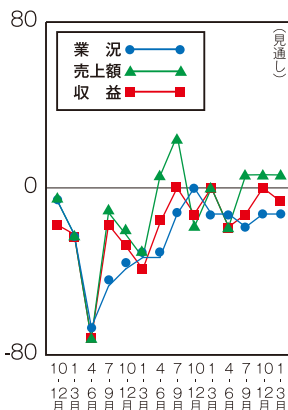
今期の業況判断DIは、前期比6.2ポイント改善の▲12.5となった。  
 売上額DIは同0.1ポイント改善の6.3、収益DIは同12.5ポイント改善の0.0となった。  
 販売価格DIは同6.2ポイント低下の37.5、仕入価格DIは同12.5ポイント低下の37.5、在庫DIは前期と変わらず0.0となった。資金繰りDIは同12.5ポイント改善の▲6.3となった。借入れを実施した企業の割合は18.8%であった。  
 雇用面では、人手DIは前期と変わらず▲6.3となった。  
 また、設備投資を実施した企業の割合は6.3%であった。

	2022年 4-6月	7-9月	10-12月	2023年 1-3月 (予想)	方向
業況判断	▲12.5	▲18.7	▲12.5	▲12.5	→
売上額	▲18.7	6.2	6.3	6.2	↘
収益	▲18.7	▲12.5	0.0	▲6.3	↘
販売価格	37.5	43.7	37.5	43.8	↗
仕入価格	31.3	50.0	37.5	31.3	↘
在庫	▲18.8	0.0	0.0	0.0	→
資金繰り	▲25.0	▲18.8	▲6.3	▲6.3	→
人手	▲6.3	▲6.3	▲6.3	▲6.3	→

### ●来期 (1-3月)

#### 売上額・収益DIはともに悪化、業況判断DIは横ばいの見込み

来期の業況判断DIは今期と変わらず▲12.5、売上額DIは今期比0.1ポイント悪化の6.2、収益DIは同6.3ポイント悪化の▲6.3を見込んでいる。  
 販売価格DIは同6.3ポイント改善の43.8、仕入価格DIは同6.2ポイント低下の31.3、在庫DIは今期と変わらず0.0を見込んでいる。  
 雇用面では、人手不足とする企業の割合は今期と変わらず▲6.3となる見込み。また、設備投資の実施を予定する企業の割合は6.3%であった。



#### 経営上の問題点

売上の停滞・減少	22.6%
同業者間の競争の激化	16.1%
利幅の縮小	12.9%
仕入先からの値上げ要請	

#### 当面の重点経営施策

経費を節減する	31.3%
販路を広げる	25.0%
提携先を見つける	9.4%

## ●小売業

### ●今期 (10-12月)

#### 業況判断DIは悪化、売上額・収益DIはともに改善

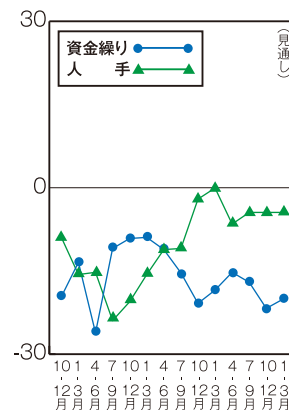
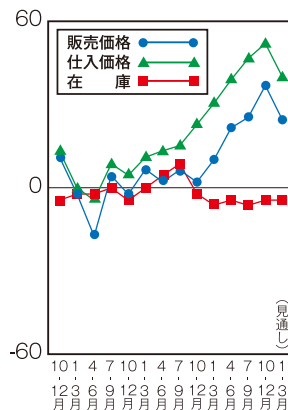
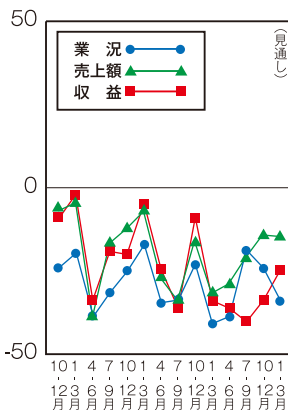
今期の業況判断DIは、前期比4.8ポイント悪化し▲21.8となった。  
 売上額DIは同6.1ポイント改善の▲13.0、収益DIは同5.8ポイント改善の▲30.4となった。販売価格DIは同11.5ポイント上昇の37.0、仕入価格DIは同5.4ポイント上昇の52.2、在庫DIは同1.9ポイント上昇の▲4.4となった。資金繰りDIは同4.7ポイント悪化の▲21.7となった。借入れを実施した企業の割合は13.0%であった。  
 雇用面では、人手DIは前期と変わらず▲4.4となった。また、設備投資を実施した企業の割合は2.3%であった。

	2022年 4-6月	7-9月	10-12月	2023年 1-3月 (予想)	方向
業況判断	▲34.8	▲17.0	▲21.8	▲30.5	↘
売上額	▲26.1	▲19.1	▲13.0	▲13.4	↘
収益	▲32.6	▲36.2	▲30.4	▲22.2	↗
販売価格	21.7	25.5	37.0	24.5	↘
仕入価格	39.1	46.8	52.2	40.0	↘
在庫	▲4.4	▲6.3	▲4.4	▲4.4	→
資金繰り	▲15.2	▲17.0	▲21.7	▲20.0	↗
人手	▲6.5	▲4.4	▲4.4	▲4.4	→

### ●来期 (1-3月)

#### 業況判断・売上額DIはともに悪化、収益DIは改善する見込み

来期の業況判断DIは今期比8.7ポイント悪化の▲30.5、売上額DIは同0.4ポイント悪化の▲13.4、収益DIは同8.2ポイント改善の▲22.2を見込んでいる。  
 販売価格DIは同12.5ポイント低下の24.5、仕入価格DIは同12.2ポイント低下の40.0、在庫DIは今期と変わらず▲4.4を見込んでいる。  
 雇用面では、人手不足とする企業の割合は今期と変わらず▲4.4となる見込み。また、設備投資の実施を予定する企業の割合は2.4%であった。



#### 経営上の問題点

売上の停滞・減少	18.6%
利幅の縮小	15.1%
仕入先からの値上げ要請	14.0%

#### 当面の重点経営施策

経費を節減する	29.9%
品揃えを改善する	20.8%
宣伝・広告を強化する	14.3%



●サービス業

●今期 (10-12月)

業況判断・売上額・収益DIはいずれも改善

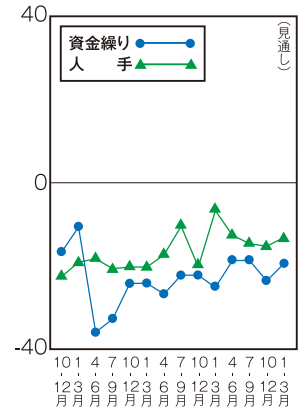
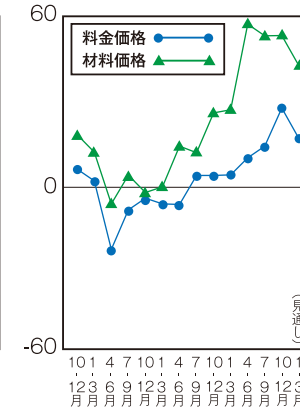
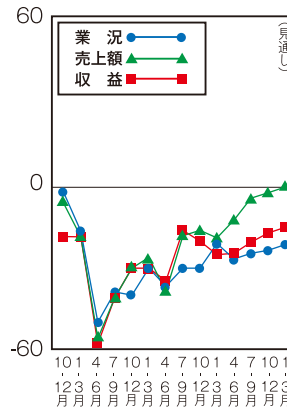
今期の業況判断DIは、前期比1.1ポイント改善の▲23.4となった。  
 売上額DIは同2.0ポイント改善の▲2.1、収益DIは同3.4ポイント改善の▲17.0となった。料金価格DIは同13.4ポイント上昇の27.7、材料価格DIは同0.1ポイント上昇の53.2となった。資金繰りDIは同5.0ポイント悪化の▲23.4であった。  
 借入れを実施した企業の割合は8.5%であった。  
 雇用面では、人手DIは同0.6ポイント低下の▲14.9となった。また、設備投資を実施した企業の割合は6.4%であった。

	2022年 4-6月	7-9月	10-12月	2023年 1-3月 (予想)	方向
業況判断	▲26.6	▲24.5	▲23.4	▲21.3	↗
売上額	▲12.2	▲4.1	▲2.1	0.0	↗
収益	▲24.5	▲20.4	▲17.0	▲14.9	↗
料金価格	10.2	14.3	27.7	17.0	↘
材料価格	57.2	53.1	53.2	42.6	↘
資金繰り	▲18.4	▲18.4	▲23.4	▲19.2	↗
人手	▲12.2	▲14.3	▲14.9	▲12.8	↗

●来期 (1-3月)

業況判断・売上額・収益DIはいずれも改善の見込み

来期の業況判断DIは今期比2.1ポイント改善の▲21.3、売上額DIは同2.1ポイント改善の0.0、収益DIは同2.1ポイント改善の▲14.9を見込んでいる。料金価格DIは同10.7ポイント低下の17.0、材料価格DIは同10.6ポイント低下の42.6を見込んでいる。雇用面では、人手不足とする企業の割合は同2.1ポイント改善の▲12.8となる見込み。また、設備投資の実施を予定する企業の割合は4.3%であった。



経営上の問題点	割合
材料価格の上昇	23.9%
売上の停滞・減少	22.8%
利幅の縮小	15.2%

当面の重点経営施策	割合
経費を節減する	38.1%
販路を広げる	21.4%
人材を確保する	11.9%

●建設業

●今期 (10-12月)

業況判断・売上額・収益DIはいずれも改善

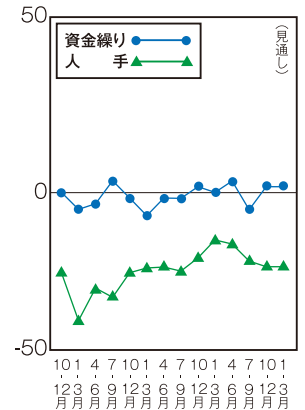
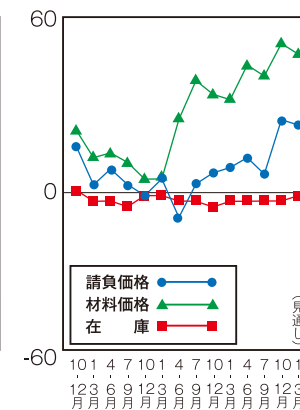
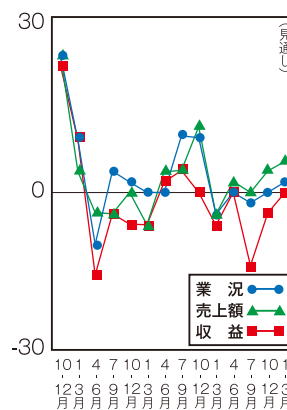
今期の業況判断DIは、前期比1.8ポイント改善し0.0となった。  
 売上額DIは同3.7ポイント改善の3.7、収益DIは同9.1ポイント改善の▲3.6となった。  
 請負価格DIは同18.2ポイント上昇の25.4、材料価格DIは同10.9ポイント上昇の50.9、在庫DIは前期と変わらず▲1.8となった。資金繰りDIは同7.3ポイント改善の1.8となった。借入れを実施した企業の割合は9.1%であった。  
 雇用面では、人手DIは同1.8ポイント低下の▲23.6となった。また、設備投資を実施した企業の割合は9.1%であった。

	2022年 4-6月	7-9月	10-12月	2023年 1-3月 (予想)	方向
業況判断	0.0	▲1.8	0.0	1.8	↗
売上額	1.9	0.0	3.7	5.4	↗
収益	0.0	▲12.7	▲3.6	0.0	↗
請負価格	12.7	7.2	25.4	23.6	↘
材料価格	43.7	40.0	50.9	47.3	↘
在庫	▲1.9	▲1.8	▲1.8	0.0	↗
資金繰り	3.6	▲5.5	1.8	1.8	→
人手	▲16.4	▲21.8	▲23.6	▲23.6	→

●来期 (1-3月)

業況判断・売上額・収益DIはいずれも改善する見込み

来期の業況判断DIは今期比1.8ポイント改善の1.8、売上額DIは同1.7ポイント改善の5.4、収益DIは同3.6ポイント改善の0.0を見込んでいる。請負価格DIは同1.8ポイント低下の23.6、材料価格DIは同3.6ポイント低下の47.3、在庫DIは同1.8ポイント上昇の0.0を見込んでいる。  
 雇用面では、人手不足とする企業の割合は今期と変わらず▲23.6となる見込み。また、設備投資の実施を予定する企業の割合は7.4%であった。



経営上の問題点	割合
材料価格の上昇	24.4%
同業者間の競争の激化	18.7%
売上の停滞・減少	17.9%

当面の重点経営施策	割合
販路を広げる	23.7%
経費を節減する	22.9%
技術力を高める	18.6%

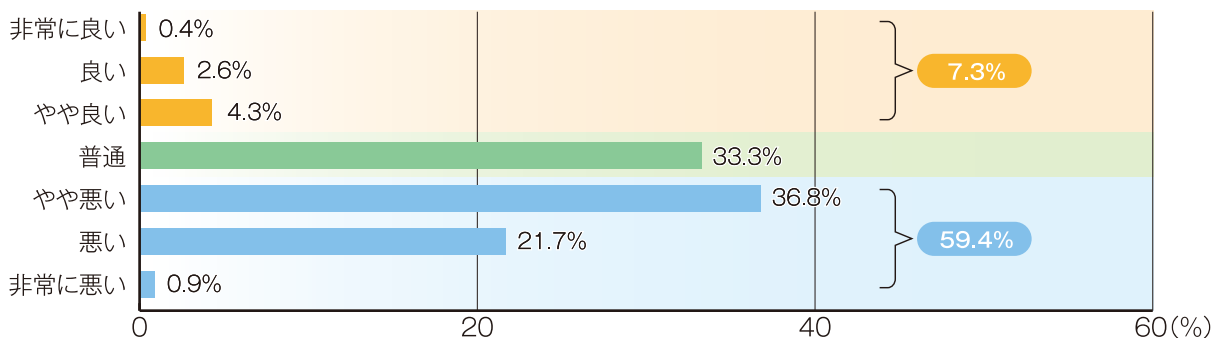
## 特別調査 2023年(令和5年)の経営見通し

### 問1 2023年の日本の景気をどのように見通していますか。

「やや悪い」が36.8%と最も多く、次いで「普通」が33.3%

「良い」(「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計)が7.3%、「悪い」(「非常に悪い」・「悪い」・「やや悪い」の合計)が59.4%となった。この結果「良いー悪い」は▲52.1と、2022年の見通し(▲54.8)と比べて2.7ポイントの上昇となった。

業種別の「良いー悪い」の割合は、製造業▲57.1、卸売業▲75.1、小売業▲42.2、サービス業▲53.1、建設業▲49.1といずれもマイナスとなった。

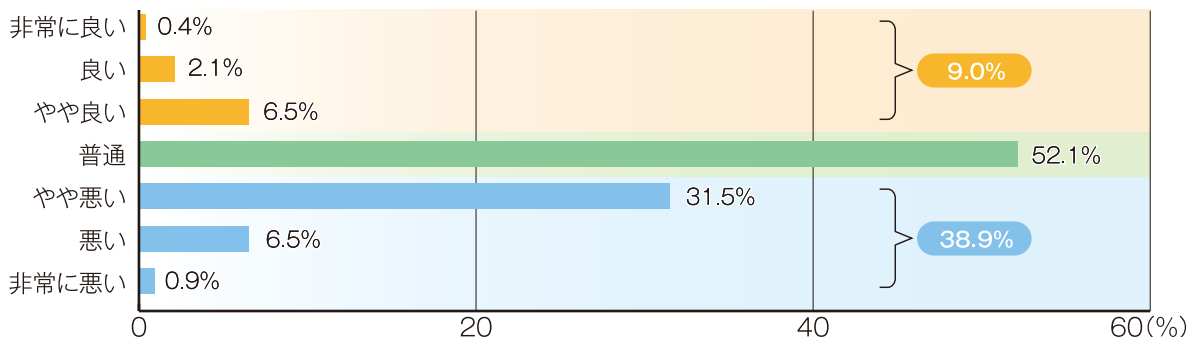


### 問2 2023年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。

「普通」が52.1%と最も多く、次いで「やや悪い」が31.5%

「良い」(「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計)が9.0%、「悪い」(「非常に悪い」・「悪い」・「やや悪い」の合計)が38.9%となった。この結果「良いー悪い」は▲29.9と、2022年の見通し(▲25.6)と比べて4.3ポイントの低下となった。

業種別の「良いー悪い」の割合は、製造業▲27.0、卸売業▲56.3、小売業▲39.1、サービス業▲36.2、建設業▲10.8といずれもマイナスとなった。

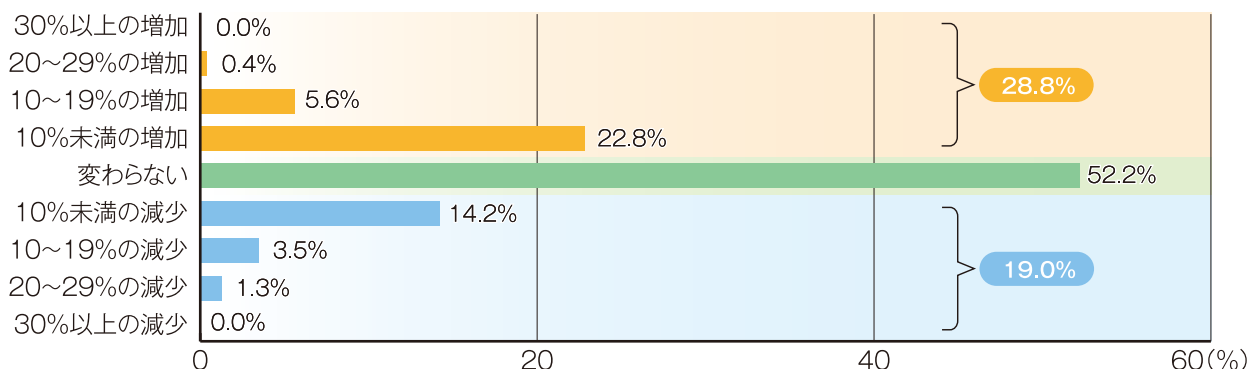


### 問3 2023年において売上額の伸び率は、2022年に比べてどのくらいになると見通していますか。

「変わらない」が52.2%と最も多く、次いで「10%未満の増加」が22.8%

「増加」の割合は28.8%、「減少」の割合は19.0%となり、「増加ー減少」は9.8となった。1年前の見通し(2.7)と比べて7.1ポイントの上昇となった。

業種別の「増加ー減少」の割合は、製造業19.0、卸売業▲6.2、小売業2.2、サービス業8.4、建設業16.4となった。

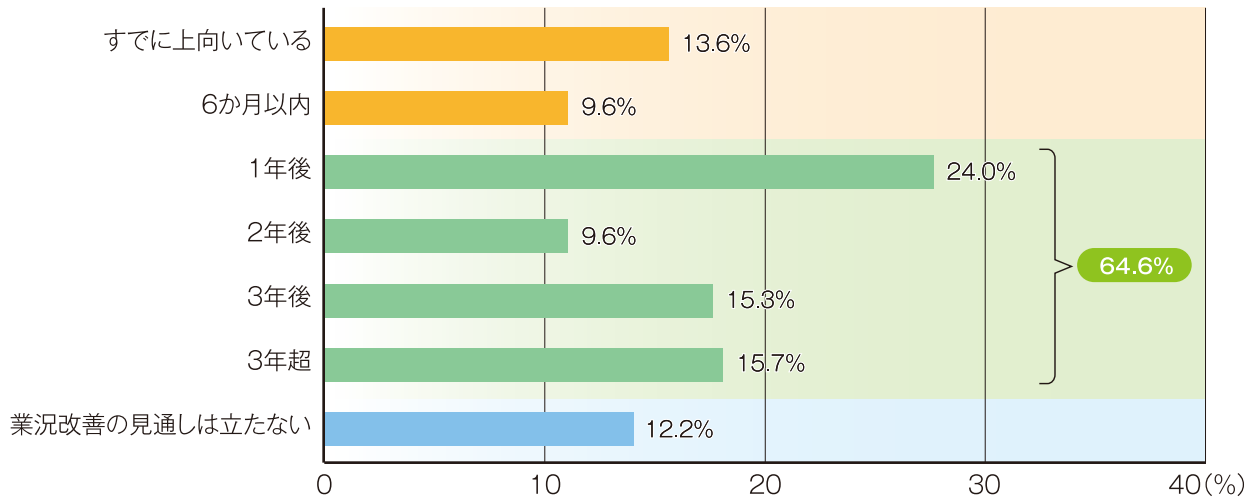


#### 問4 自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。

「1年後」が24.0%と最も多く、次いで「3年超」が15.7%

「6か月以内」が9.6%、1年以上（「1年後」・「2年後」・「3年後」・「3年超」の合計）が64.6%となり、業況が上向きまでには引き続き期間を要すると見通している。

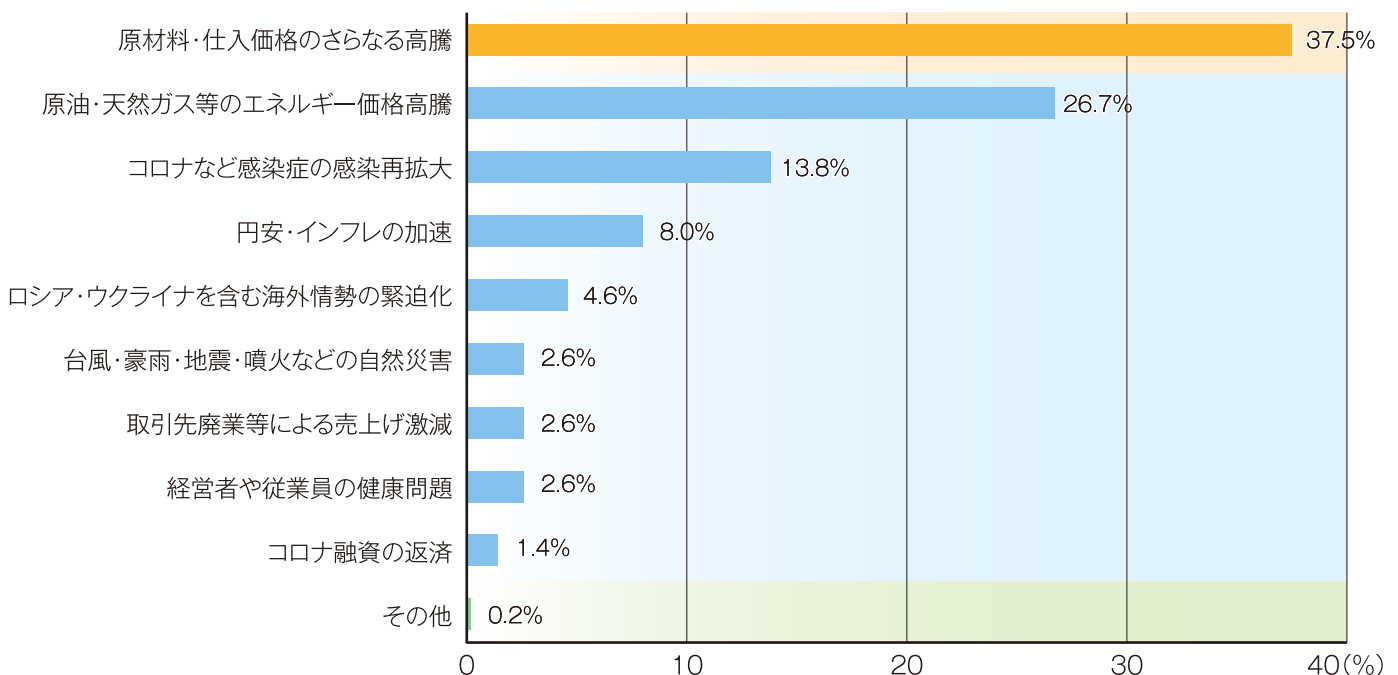
また、「業況改善の見通しは立たない」は12.2%と1年前（19.8%）と比べて7.6ポイントの低下となった一方で、「すでに上向きしている」は1年前（14.7%）に比べて1.1ポイント低下しており、苦しい状況が続いている。



#### 問5 2023年の事業環境を展望したとき、自社にとっての経営リスクは何ですか。最も当てはまるものを最大3つまでお答えください。

「原材料・仕入価格のさらなる高騰」が37.5%で最多

「原油・天然ガス等のエネルギー価格高騰」が26.7%、「コロナなど感染症の感染再拡大」が13.8%、「円安・インフレの加速」が8.0%と続いた。



須賀川信用金庫お客様向けご案内



## カーボンニュートラルへの挑戦を e-dashと加速させる。

e-dashは、企業のエネルギーコスト削減や、CO<sub>2</sub>排出量削減への取り組みを総合的にサポートするサービスプラットフォームです。



### FEATURES

e-dashは、サービスプラットフォームを通じて、エネルギーの最適化からCO<sub>2</sub>削減までをトータルにサポートします。

#### CO<sub>2</sub>排出量の可視化

データ入力から算出、分析まで  
e-dashが自動化します

#### CO<sub>2</sub>排出量の報告

各種報告に必要なデータをまとめて  
定期的にレポートを発行します

#### CO<sub>2</sub>排出量の削減

コスト削減から排出量削減まで  
具体的な方法をご提案

さあ、ともにはじめよう。



今年から サービスの詳細や  
デモ画面の紹介を承ってます

お申し込みはこちらから



面談申し込みフォーム

フォームが開かない場合は、hello@e-dash.ioまでご連絡ください



MITSUI & CO.

e-dashは、三井物産の新たな挑戦です。

## 〈すしん〉景況レポート No.23

発行：須賀川信用金庫  
〒962-0054 福島県須賀川市牛袋町121-1  
発行年月：2023年1月  
編集：総合企画部 TEL 0248-75-3176

<https://www.sushin.co.jp>



この印刷物は、FSC®の基準に従って認証され、  
適切に管理された森からの木材を含んだ用紙に、  
「植物油インキ」を使用して印刷しました。